

連携だより

令和8年

1 月号

令和8年1月1日発行

独立行政法人 国立病院機構

呉医療センター・中国がんセンター
地域医療連携室

〒737-0023 広島県呉市青山町3-1
0823-22-3111(代)

紹介予約専用

TEL 0823-22-3816

FAX 0823-32-3070

URL <https://kure.hosp.go.jp>

1月の花 スイセン

理念
思いやりのあるやさしい誠実な医療を提供します



今月号のトピックス

- 地域医療連携部長新年の挨拶 1
- 11月19日（水）定期講演会開催しました 2
- 12月1日（月）特別講演会開催しました 3
- 呉中通病院とのリハビリテーション部門間交流 4・5
- がんサロンだより 6・7
- 1月時間外研修会／勉強会 8

地域医療連携部長挨拶



地域医療連携部長
内視鏡内科科長
吉田 成人

新年あけましておめでとうございます。旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

令和7年は第六回地域医療連携つどいの会を7月3日にクレイトンベイホテルで開催し、多くの医療機関の方に参加して頂き盛会裏に終わることが出来ました。これも一重に当院と連携して頂いている皆様方の御協力の賜物と感謝しております。

地域連携につきましては、引き続き「地域から選ばれる地域医療連携室」を目指して取り組んでいきたいと考えております。昨年は、繁田院長をはじめ田代副院長、各科科長で、地域の多くの医療機関に訪問させていただきました。直接呉医療センターの地域連携への取り組みや各科の特徴の説明をさせていただき、連携に際しての問題点、改善点のご指導も多くご教授いただきました。また地域住民を対象とした「がんサロン」や「市民公開講座：がん講演会」、地域の医療機関を対象とした「地域医療研修センター講演会」、当院の医療関係者および地域の介護領域関係者との連携を目指した「地域医療連携の茶話会」も開催することができました。

入退院支援に関しましては、入院前から退院困難となっている要因をピックアップし、病棟と連携しながら、退院支援にも力を入れております。引き続き院内だけでなく、連携医療機関の皆様からもご意見を頂き、円滑で正確な退院支援ができるように努力してまいります。

まだまだ、至らない点が多々ありますが、今後も地域医療機関の皆様との連携を密にしていきたいと考えており、皆様方の忌憚のないご意見をお願いいたします。

本年も変わらぬお引き立てのほどよろしくお願いいたすと共に、皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。



11月19日（水）定期講演会開催しました



精神科科長
大盛 航先生

2025年11月19日（水）精神科科長 大盛 航先生に「眠れない夜が招く病気たち ―不眠症と健康被害―」と題されまして、不眠がもたらす様々な健康障害や予防・治療について分かりやすくご講演頂きました。

（以下抄録より）

不眠症は単なる睡眠の問題にとどまらず、生活習慣病、うつ病、認知症など多様な健康被害のリスク因子となります。近年、慢性的な睡眠不足が免疫機能低下や心血管疾患発症にも関与することが明らかになっています。本講演では、不眠症の定義や分類、身体・精神への影響、発症メカニズム、そして予防・治療のポイントについて、最新のエビデンスを交えて解説します。



演者
精神科科長 大盛 航



座長
内科系診療部長
循環器内科科長
杉野 浩



会場風景



前列左から：精神科医師 谷 千尋、院長 繁田 正信、精神科科長 大盛 航、
内科系診療部長・循環器内科科長 杉野 浩
後列左から：精神科医師 小田 渉、精神科医師 長尾 達憲、精神科医師 柳井 鴻佑

12月1日（月）特別講演会開催しました



広島大学大学院
医系科学研究科
放射線腫瘍学
教授
村上 祐司先生

2025年12月1日（月）特別講演会を開催しました。

広島大学大学院 医系科学研究科 放射線腫瘍学 教授 村上 祐司先生に放射線治療の現状と最近のトピック「転移巣に対する放射線治療」と題されまして、患者の将来を見据えた最新の放射線治療について分かりやすくご講演をいただきました。（以下抄録より）

放射線治療技術の高精度化と集学的治療の進展により、その重要性は一層高まっています。一方で、放射線治療医不足への対応や、2040年をピークにがん患者数が減少に転じることを見据えた体制構築は喫緊の課題です。本講演では、これらの背景を踏まえ、広島における放射線治療体制の現状と課題について、そして、高精度技術の進展により変容した転移巣治療の新たな役割について概説します。



演者
広島大学大学院
医系科学研究科
放射線腫瘍学
教授 村上 祐司先生



座長
放射線腫瘍科科長
幸 慎太郎



質疑応答
血液内科科長
伊藤 琢生



質疑応答
感染対策部長
外科医長 首藤 毅



質疑応答
耳鼻咽喉科・頭頸部外科医長
古家 裕巳



前列左から：中央放射線センター部長 豊田 尚之、放射線腫瘍科科長 幸 慎太郎、
広島大学大学院 医系科学研究科 放射線腫瘍学 教授 村上 祐司先生、院長 繁田 正信、
放射線腫瘍科医師 坂内 裕志、統括診療部長 耳鼻咽喉科 頭頸部外科科長 立川 隆治
後列左から：放射線科看護師 和田 かおり、放射線科技師長 二見 智康、放射線技師主任 谷本 祐樹、
放射線技師主任 吉田 昌平、放射線技師主任 大山 康裕、放射線技師 田盛 雅英、
放射線技師 菅原 一真、放射線技師 八木 美保

呉中通病院とのリハビリテーション部門間交流

この度、呉中通病院とのリハビリテーション部門間交流の取り組みとして、11月10日（月）から11月14日（金）の5日間、呉中通病院リハビリテーション部のスタッフ2名が当院にてリハビリテーション見学研修を実施しました。呉中通病院と呉医療センターのリハビリテーション部門の連携強化や人材育成を目的とし、臨床場面やカンファレンスの見学、症例に関するディスカッションなどを行いました。

呉中通病院 理学療法士 本園 裕輝

貴院での研修を通じて、特に全身状態を把握しリスク管理しながらのリハビリに違いを感じました。当院では回復期病院という特色もあり症状の落ち着いた方が多く、全身状態の悪化等があれば臥床する時間が長くなり早期離床への不安がありました。しかし、貴院ではリスク管理を行いながらプロトコル・パス等を使用し病期に応じたリハビリを提供し早期離床を図っておられ、このリハビリが患者様の早期の回復に繋がっていると実感しました。

今回の研修で得た経験・学びを当院での臨床に活かしていき、急性期回復期病院が一体となり患者様により良いリハビリを提供できるよう努めていこうと思います。

この度はご多忙の中、本当にありがとうございました。

呉中通病院 作業療法士 金杉 駿

この度の1週間の研修で、急性期の患者様のリハビリの見学や、カンファレンスに参加させて頂きました。限られた時間の中で、ベッドサイドモニターによるバイタルサインの監視や、点滴投与した状態の患者様の早期離床に取り組んでおられました。回復期病院では中々そのような状態でリハビリをすることがなくそのような経験がなかったため、患者様の全身状態に合わせてのリスク管理や評価に基づいた負荷量の調整等のお話を聞かせて頂き大変勉強になりました。

ご多忙の中、お時間を割いて頂き本当にありがとうございました。

呉医療センター 理学療法士 西岡 孝浩

がん（外科・血液内科）領域の見学研修を通して、急性期と回復期における考え方やリスク管理の違いを改めて共有する良い機会となりました。

回復期では状態が安定しているからこそ末梢ルートのみであったり、心電図モニター装着者が少ないため、橈骨動脈の触知によってリズムを確認するなど、急性期とは異なる安全管理の視点を学ぶことができました。

血液内科では採血データを一緒に確認し、予測されるリスクを理解するだけでなく、化学療法や移植後の病期に応じた患者さんへの接し方を、実際の場面を通して見ていただくことができました。また、回復期へつなげるうえで急性期に求められる役割や期待について、現場の声として直接伺うことができ、急性期と回復期の連携の重要性を改めて実感しました。

呉医療センター 作業療法士 國清 沙弥

今回の1週間の研修にて、急性期病院のリハビリを見学していただきました。

見学していただいたのは、循環器疾患、血液内科疾患、廃用症候群の方です。回復期病院と違い、心電図モニターや点滴など、デバイスの多さに関心を寄せられていたのが印象的でした。

話をさせていただく中で私自身が気になったのは、一人の患者さんにかかる時間についてです。急性期と回復期とで時間に差はあれど、積み重ねと連携が患者さんの自宅退院へ繋がると考えると、これからも頑張っていこうと再確認ができました。



写真の氏名を左から：呉医療センター 理学療法士 宮原 敏郎
 呉医療センター 作業療法士 坂田 智司
 呉中通病院 作業療法士 金杉 駿
 呉中通病院 理学療法士 本園 裕輝
 呉医療センター 理学療法士長 日浦 雅則

救急外来へのご紹介について

救急車で搬送する患者さんのご紹介は、救命救急センター医師が症状等を直接お伺いさせていただきますので、「救急外来受付」まで電話でご連絡いただきますようお願い申し上げます。

救急外来
受付直通

TEL : 0823-23-1020
 FAX : 0823-21-7474

【紹介予約専用電話】のお知らせ

外来紹介予約に関するお問い合わせ

地域医療連携室直通

TEL : 0823-22-3816
 FAX : 0823-32-3070

その他のお問い合わせ

病院代表電話

TEL : 0823-22-3111

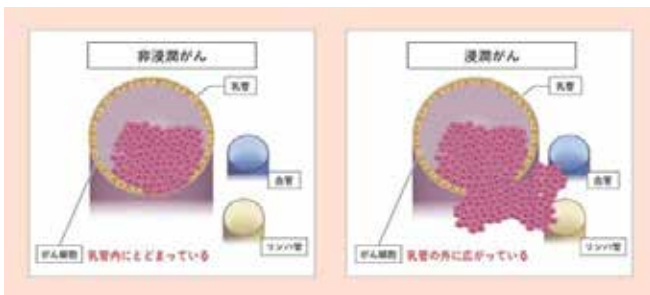


9月の乳がんサロンは、18日（木）に開催されました。テーマは「乳がん治療～近年のトピックス～」でした。講師は、乳腺外科の川又あゆみ先生です。

1. 乳がん分類

乳がんにはいろいろなグループ分けがあります。まず、発症の仕方では分けます。乳がんが、乳管を囲む乳管上皮細胞という細胞から発生し、乳管の壁を突き破ることなく乳管内にとどまっているものを、非浸潤がんと呼びます。いわゆるステージ0のがんです。一方、乳がん細胞が乳管の壁を突き破り、周囲の組織まで浸出しているものを浸潤がんといいます。

<乳がんの広がり方>



さらに、浸潤がんは、しこりの大きさや脇のリンパ節に転移があるかどうか、遠隔転移があるかどうかによってステージ1～4へ分けられます。

そして、治療を考える上で重要なグループ分けが、サブタイプ分類です。ホルモン陽性をルミナルタイプといい、HER2陽性をHER2陽性乳がんといいます。そしていずれも陰性のものをトリプルネガティブ乳がんといい、このタイプに応じて治療方針が異なります。

<サブタイプ分類>

	ホルモン受容体陽性		ホルモン受容体陰性
	発症でない	発症	
HER2 陰性	ホルモン受容体陽性 / HER2 陰性 ルミナル A ホルモン療法	ホルモン受容体陽性 / HER2 陰性 ルミナル B ホルモン療法 + 化学療法	トリプルネガティブ (ホルモン受容体陰性 / HER2 陰性) 化学療法
HER2 陽性	ホルモン受容体陽性 / HER2 陽性 抗 HER2 療法 + 化学療法 + ホルモン療法		ホルモン受容体陰性 / HER2 陽性 抗 HER2 療法 + 化学療法

2. 乳がんの治療

乳がんの治療は、初期乳がんには、局所療法として手術を行い、再発予防のため、タイプに応じて全身療法の抗がん剤やホルモン剤、抗HER2療法や分子標的療法を行います。一方、転移性乳癌に対しては、全身療法、つまり、抗がん剤、ホルモン剤、分子標的薬などの薬物療法が中心となります。

3. 乳がんのトピックス：①

<ラジオ波焼灼術>

基準を満たす一部の方に限られますが、新たな治療法として切らない治療、ラジオ波焼灼術が2023年12月から保険診療で行うことができるようになりました。全身麻酔は必要ですが、皮膚表面から乳癌の患部に電極を刺入して、高周波電流によって腫瘍組織を焼灼凝固する方法です。



4. 乳がんのトピックス：②

<抗体薬物複合体（ADC）>

抗体薬物複合体は、抗体によってがん細胞に標的を絞り、抗体にくっつけた薬物をがん細胞内に直接届ける薬剤です。この薬剤は、抗体によってがん細胞を認識することでがん細胞は攻撃するが、正常な細胞への影響は最小限にとどめる目的で設計された、新しいタイプのがん治療薬です。



HER2陽性乳がん：エンハーツ®
ホルモン陽性乳がん：ダトロウェイ®
トリプルネガティブ乳がん：トロデルビ®

古くからある抗がん剤のように、がん細胞だろうが正常細胞だろうが、どんな細胞でも全部攻撃してしまう薬剤よりダメージが少ないと考えられています。

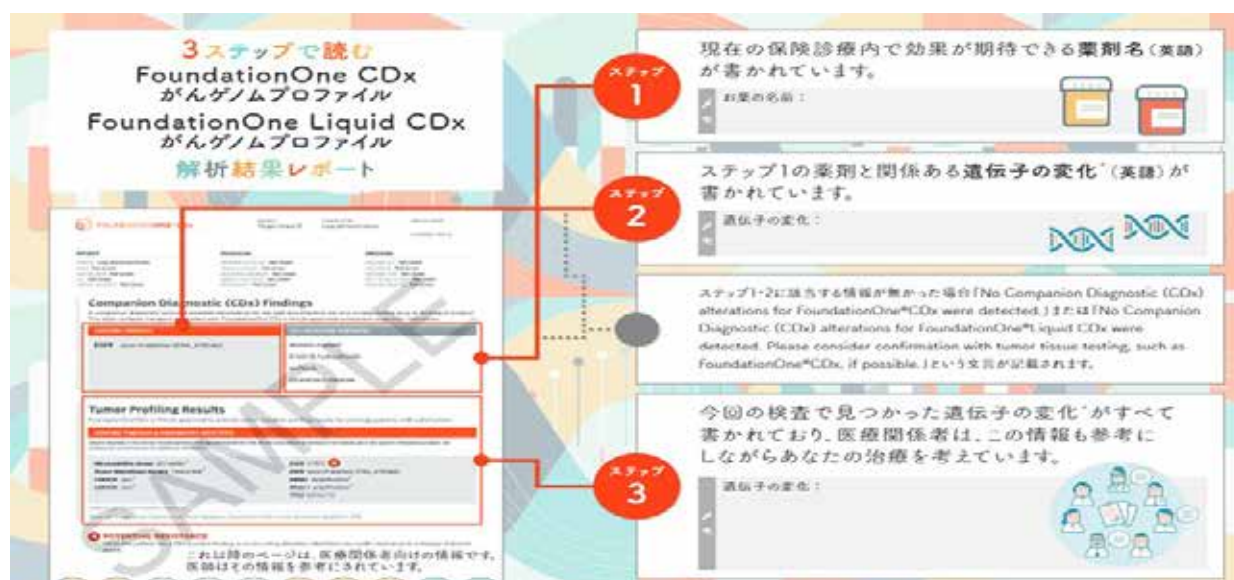
先駆けは、HER2陽性乳がんの治療薬でしたが、開発が進み、現在では、すべてのタイプで抗体薬物複合体が使用できる状況となっています。

5. 乳がんのトピックス：③ ＜遺伝子検査＞

それほど新しい話ではありませんが、早期乳がんの方でも再発転移乳がんの方でも遺伝子検査について考える機会が増えています。乳癌領域は、BRCA1/2遺伝子検査（遺伝性乳癌卵巣がん症候群）、Oncotype Dx®（早期乳がんの方で術後抗がん剤を追加するかどうかの指標）、FoundationOne CDx（遺伝子レベルでがんの特性を知り、治療方針選択の一助となる）といったものがあります。

＜Oncotype Dx®＞

オンコタイプDx乳がん再発スコア検査は、21遺伝子の発現量を測定することで一人ひとりの腫瘍の生物学的特性を明らかにします*。



6. おわりに
当院では、患者さんにかかりつけ医を作っただけで、術後連携を行うことを勧めています。そうすることで、患者さんも相談先が増え、乳がんだけではなく、些細な体の不調にも対応できると考えます。乳がんと告知されてから不安を抱えていらっしゃる方は多いと思います。しかし、そんな時には、当院乳腺外科医、また、かかりつけの先生にご相談いただき、一緒に解決していけると大変うれしく思います。

【事前申し込み・お問い合わせ先】

呉医療センター・中国がんセンター
がん相談支援センター

☎：0823-24-6358
(直通電話)

平日：9時～16時

よろず・がん相談窓口（④番窓口）

平日：8時30分～17時15分

寄稿：乳腺外科 川又あゆみ 先生
編集：がん相談支援センター

1月の時間外 研修会／勉強会



研修会名	日 時	場 所	講 師 ※敬称略	担当部署	院外参加	対象職種
地域医療研修センター特別講演会 「医師を成長させてくれる 患者さんとの出会い」	1月9日 (金) 18:30～19:30	地域研修センター 1・2	広島大学大学院 医学科学研究科 産科婦人科学 教授 山口 建 先生	管理課	○	全職種
TCSA勉強会 「人工呼吸器装着患者における口腔管理」	1月19日 (月) 18:00～18:45	地域研修センター 1・2	呉医療センター 歯科口腔外科科長 武知 正晃	栄養管理室	○	全職種

自己研鑽で専門性を高めましょう!!

〔連絡先〕

独立行政法人国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター 管理課 庶務係 (教育企画部)
広島県呉市青山町3番1号 / TEL: 0823-22-3111 / E-MAIL: kure.hosp.go.jp



〒737-0023 広島県呉市青山町3-1

地域医療連携室

吉田 成人 久保田益巨
寺尾 秀二 西岡 初子
折本 陽一 片山 千雪

独立行政法人 国立病院機構

呉医療センター・中国がんセンター

(紹介予約専用電話)

TEL: (0823) 22-3816 FAX: (0823) 32-3070